

第 64 回国際理解・国際協力・多文化共生のための全国中学生作文コンテスト東京都大会 銀賞

創価中学校 3 年

岩田 智史

課題②

世界の平和のために私たちができることは何か。

副題

なし

僕達は、情報に振り回されている。

今、マス＝メディアだけでなく SNS などを通して全世界のあふれるほどの情報を好きなように見ることができる。だが、あふれる情報を処理しきれない僕達は、自分にとって都合の良い情報にしがみつくな、どれが正しいのか迷うかして、実際の世界を知らないのではないかと感じる。

2022 年 2 月 24 日、ロシアによるウクライナ“侵攻”が始まった時、僕は 12 歳だった。小学校の授業の中でも第二次世界大戦、太平洋戦争の悲惨さを勉強しており、少なくとも戦争が起こってはいけないということをはっきりと分かっていた。そんな中で突然のウクライナ“侵攻”が起こった。友達同士で、ヤバくない？怖いね。などと話し、インターネットでウクライナの被害状況や侵攻範囲の図などを調べ、テレビで被害の悲惨な映像を見て、恐ろしいと思った。ウクライナ“侵攻”がいつ終わるのか先が分からない小学生の僕には、このまま日本でも“侵攻”の影響によって、戦争になってしまうのか、恐怖の心を持ったまま卒業までの日々を過ごしていた。だが、その“侵攻”が終わってはいないのに、ウクライナの被害状況を伝えるニュースが徐々に少なくなっていった。僕はなぜ放送しないのかを親に聞いてみた。すると、「良いことではないけど、当たり前になって関心が薄れたのでは？」とのことだった。なぜこの世界で人が殺し合っているのにその事を考えないのか不思議に思った。

もう一つ自分には疑問に感じてしまうことがあった。それはウクライナ“侵攻”という言葉だ。この疑問は、戦争という恐ろしさを学んだことから思いついた。僕は、どうしてこの“侵攻”を“戦争”と呼ばないのか、ということだ。戦争という言葉調べてみると、‘特に国家間で、互いに自国の意思を相手国に強制するために、武力を用いて争うこと。’とあった。ロシアが起こしたのは“侵攻”ではなく“戦争”ではないのか。“戦争”という言葉を使わないで、かりそめの平和を作っているのではないかとと思う。

日本は太平洋戦争で原子爆弾が落とされたという残酷な歴史がある。僕は修学旅行で 8 月 6 日に原爆を落とされた広島を訪れた。そこで本当の核の恐ろしさを思い知らされた。僕は全く核のことを分かっていなかった。だが、広島原爆よりもはるかに威力のある核兵器を持つロシアが、ウクライナ“侵攻”で 50%以上の確率で核兵器を使う可能性があったという話を聞いた。ロシアは地獄を作ろうとしているとしか考えられない。核を保有するすべての国もやっていることは戦争の準備と同様だと僕は考える。

争いが起こっているのはウクライナだけではない。ミャンマーの国軍クーデター、イスラエルのガザ地区の戦争など、現在も変わらず続いている争いはいくつもある。だがマス＝メディアは一度は大きく取り上げた後、自然に冷めていってしまっているようにしか見えない。また、イギリスの難民問題による暴動が今起こっている。その原因はある事件に関する偽情報によるものだった。そうやって人々は情報に振り回されている。僕は振り回されていることこそ今この世の中で変えていくべき一番の社会問題になるのではないか。常に国際問題が起きているこの時代は本当に平和というのだろうか、と思う。

僕が心配しているのは、僕達は自分で理解しやすい、または自分にとって都合のいい情報で判断をしてしまうことだ。あふれる情報の中で何が正しいか判断するのは難しい。それでも、自らの信念に基づき、様々な意見に耳を傾けながら、正しい道を見つけようと努力することが必要だと考えている。そして、正しい道を見つけたなら、今、目の前にいる仲間と行動を移していくことが平和への一歩につながっていくと信じている。